

生活協同組合しまね

創立40年とこれから

生活協同組合しまね

40年のあゆみ



## ごあいさつ



理事長  
**安井 光夫**

おかげさまで、生協しまねは今年11月19日で創立40周年を迎えることとなりました。行政をはじめ、地域諸団体の方々、お取引先の方々、そして7万余の組合員に支えられ今日を迎えることができたことに対し、心よりお礼と感謝の意を表したいと思います。

生協しまねの創立は1984年ですが、設立準備は1981年から始まりました。私事で恐縮しますが、1981年4月、地域購買生協設立を条件に、医療生協である松江保健生協の職員として採用された私は、入って早々、今年で再建50周年を迎えられたおかもコープ、当時の岡山市民生協に半年間研修に出させていただきました。そして翌年、松江保健生協第30回総代会で「購買事業部」を新たに設け、私を含め保健生協職員3名が専従となり、生協商品11品目、組合員62名での設立準備に向けた事業活動をスタートさせたのです。

全国的には70年代当初より地域生協づくりが始まり、班を基礎とした共同購入事業がシステム的にも確立され、COOP商品も次から次へと開発が進んだ時代でした。生鮮商品も鳥取東部生協(現 鳥取県生協)からの紹介で和歌山県にある下津農民組合の温州みかん、マルイ農協直販(現 マルイ食品)の冷凍若鶏正肉、林兼産業の冷凍黒豚バラ肉、利岡商店(現 シーサット)の冷凍切り身魚、さとの雪食品の充填豆腐、また、地元では雲南農協・頓原加工所(現 JALしまね雲南地区本部)の頓原みそ等、創立の1984年11月までには一通りの商品を取り揃えることができました。

改めて近隣生協の皆様、お取引先の皆様のご支援、ご厚情に感謝申し上げますと共に、ビジョン「共に生き 共に創る豊かな暮らし」実現に向け、今後とも一層の努力をして参ります。引き続き生協しまねに対するご支援ご鞭撻のほど、心よりお願い申し上げます。

## 祝 辞



島根県知事  
**丸山 達也**

このたび、生活協同組合しまねが創立40周年を迎えられ、併せて記念誌発行の運びとなりましたことを心からお慶び申し上げます。

生活協同組合しまねにおかれましては、昭和59年に創立され、「共に生き 共に創る豊かな暮らし」を目指し、商品の安全安心を求めた供給事業に取り組み、組合員の生活安定に大きな役割を果たしてこられました。

また、人と人との繋がりを基本とした助け合いや社会貢献活動にも取り組み、組合員のみならず広く県民の暮らしに大きく貢献してこられました。

これもひとえに組合員、役職員の皆様のおゆまぬご努力によるものであり、深く敬意を表します。

今後とも県民生活における様々な分野の課題解決に向け、地域社会と連携を図っていただきながら社会情勢の変化にも対応した幅広い活動を展開いただきますことをご期待申し上げます。

県としましても、近年の消費者被害の多発による、消費者の不安の高まりを受け、消費生活相談体制の充実・強化、消費者被害の未然防止・拡大防止、消費者教育の推進等、県民の安全安心な暮らしを守るための取組を進めてまいりたいと考えておりますので、一層のご理解とお力添えをお願いいたします。

結びに、生活協同組合しまねの今後ますますのご発展と、組合活動に取り組まれているすべての皆様のご健勝とご活躍を祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

## C O N T E N T S

### ごあいさつ

理事長 安井 光夫 .....	P.2
祝辞 .....	P.3
生協のある暮らし .....	P.6
生協しまねビジョン .....	P.7
誰もが安心して住み続けられる地域づくり .....	P.8
諸団体・地域と連携して地域課題に挑む .....	P.9
安心・安全な食を届ける .....	P.10
未来を創る .....	P.10
復興支援 .....	P.11
現在の到達点 .....	P.12
生協しまねの未来を見据えて .....	P.13
事業所・理事会・監事会紹介 .....	P.14

### 40年のあゆみ(年表)

## 祝 辞



日本生活協同組合連合会  
代表理事長

土屋 敏夫

生活協同組合しまねの創立40周年にあたり、全国の生協の仲間とともに心よりお祝い申し上げます。

貴生協は、1984年の創立以来、多くの困難の中で歴史を積み重ねてこられた皆様のご努力に対し心より敬意を表します。

地域においては、「おたがいさま」活動をはじめ、暮らしを守るさまざまな活動や、協同組合・地域諸団体との連携、協同の活動など全国の生協をリードする取り組みをすすめてこられました。

全国の生協においても、2030年ビジョンの「つながる力」を大切にし地域の皆様と連携・協力しながら、様々な活動や支援に取り組んでいます。

今後、少子高齢化、人口減少が急速に進み、貧困や格差など、ますます地域の課題は多様化し、深刻化していきます。こうした地域での課題解決に向け、より一層様々な団体が連携し、取り組んでいくことも求められています。

長引くインフレで、消費者・組合員のくらしはますます厳しい状況が続いています。

生協の事業経営においても、物流経費をはじめあらゆるコストが増加し、現場をはじめとする体制の不足など、厳しい経営環境が続いています。

そして、世界の軍事的緊張も一段と高まる中で、私たち生協は、平和と核兵器廃絶の願いを広げるとともに、SDGsの「誰一人取り残さない」取り組みを、組合員、全国の生協、そして地域の皆様といっしょに、より一層連携して進めていきましょう。

40周年を迎え、これからも、組合員の皆様と共に力を出し合い、よりよい地域の未来に向けて、ますます力強く発展されますことを祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

## 祝 辞



島根県生活協同組合連合会  
会長理事

矢倉 淳

生協しまねの40周年を心からお祝い申し上げます。

この40年間、地域社会において生協しまねは、健康的で持続可能な生活を支える重要な存在として、多くの方々に愛され、信頼されてまいりました。その歴史と成長を讃えると共に、未来への展望を共有できることを誇りに思います。

40年の歳月は皆様の熱意と努力によって築かれたものです。地域の課題に真摯に向き合い、日々の生活を支える商品とサービスを提供してこられたことに心より感謝申し上げます。持続可能な消費の推進、そして社会的責任の実践において、生協しまねの果たされた役割は計り知れません。具体例としては、地域つながりセンターを通じ「おたがいさま」の精神で地域の方々と共に歩み、地域の発展に寄与、さらに昨年県内各市町村と包括支援協定を結び、高齢者の見守り活動など積極的に推進しています。時代の変化に即応し、新たなニーズに応えるために、革新的なアプローチを取り入れていくことが生協しまねの使命です。地域の方々と共に、地域社会の発展に寄与していくことで、その存在意義を示し続けることが出来ると確信しています。

最後に、これからも地域の皆さまと共に築き上げ、さらなる飛躍と発展を期待し、お祝いの言葉といたします。

## 祝 辞



くらしと協同の研究所  
理事長

若林 靖永

生協しまねの40周年おめでとうございます！

くらしと協同の研究所も昨年30周年を迎えましたが、これまで本研究所に参加し、ともにすすんできたこと、感謝の意を申し上げます。

くらしと協同の研究所は1993年創立以降、都市部での生協の発展とともに、地域社会での生協の発展についても注目し、西日本各地で研究会や調査活動をすすめてまいりました。たとえば、1997年には島根県松江市で「しまねシンポジウム 地域のくらしと協同を考える—しまねからの発信」を開催しました。ここでは1995年の生協しまねの組合員調査の結果をふまえ、超高齢化が日本のなかで特に進むエリアにおける生協の役割や課題などについて話し合われました。さらに2007年の本研究所総会記念シンポジウムでは、生協しまねのおたがいさまの事業に注目し、地域社会での協同について話し合いました。このように生協しまねの取り組みは、それぞれの地域に根ざしてそれぞれの地域の人々とともに歩む生協のあり方を示すものとして、私たちは学んできました。

変化する21世紀の社会において生協しまねの果たすべき役割、使命はさらに重要でしょう。ますますのご挑戦ご発展を祈念し、本研究所とともに学び歩んでいきたいと思っております。

## 祝 辞



元生協しまねアドバイザー

毛利 敬典

生協しまねの創立40周年、誠におめでとうございます。

生協はたくさんの方々の協力、協同によって営まれてきたものであり、40年の間に関わった人々と共に喜びたいと思います。数ヶ月前のことですが、生協しまねの創立時に近所を一軒ずつ訪ね、組合員にお誘いしたという90才を超える組合員の話聞く機会がありましたが、そういう人たちのおかげで今があるのだと実感させられました。

私自身は、20年を超える生協しまねでの活動を通してたくさん学びをさせてもらいました。組合員一人ひとりのくらしをいねいに見ていくこと、一人ひとりのくらしが多く組合員にも見えるようにすること、そういう総代会づくり、また、生産者・取引先との提携のあり方の見直し等々を通してです。

また、組合員が主体となって始まった有償たすけあいシステム「おたがいさま」の島根全体への広がりを見せてもらうことで、改めて生協という組織の可能性なども実感させてもらいました。

島根県は、日本社会の変化と同じく、高齢社会、人口減少、過疎化などに見舞われ、生活者にとって生協の存在感がますます高まるわけですが、改めて、協力・協同の力でその存在感を高めていくことを願っています。



## 一つひとつ創り上げてきた、“私たち”の生協



松江市  
柏木 小枝子さん

### 自分たちで創り上げる実感

私が生協しまねの設立準備委員として活動し、発起人の1人となったのは、ある方の訪問がきっかけでした。それは、当時たった3人しかいなかった職員の勝部さんでした。両手に生協商品を持って、生協とは何ぞやを語られました。すぐに近所の方を集めて班を作ることになり、あれよあれよという間に自然と設立準備委員会に入り、生協を広げる活動をするようになりました。“良いものだから広げたい”という想いをもちながら、生協商品を抱え、1軒1軒お宅を訪問したものです。加入いただくこともありましたが、なかなか上手はいきません。しかしながら、当時を振り返っても、“苦しかった”という想いはありません。むしろ楽しかった。それは、“私たちの生協を私たちの手で創り上げている”という実感があったからです。生協設立賛同者も2,025名に増え、いよいよ創立を迎える日、“自分たちの生協がようやくできたんだ”という想いに満たされたことを鮮明に覚えています。あれから40年。関わり方は違えど、生協はずっと私の日常生活に溶け込んでいます。生活の中に生協が当たり前にあること…それは、私の安心につながっています。

### 当たり前の暮らしの根底には平和がある

私の生協活動の中で最も印象に残っているのは、“平和活動”の取り組みです。創立の1年前に初めて『母子の平和映画会』を上映しました。上映日は出産予定日の10日前だったので、大きなお腹をさすりながら司会者としてあいさつをしたことを覚えています。当時も今も、安心して暮らせることが生活の中で一番大切だと思っています。日々の当たり前にある暮らしの根底には平和があります。日本生協連の創立時の「平和とよりよい生活のために」のスローガンを忘れず、これからも暮らしと平和を守る生協であることを願っています。

## 創立初期の、忘れられない思い出



仁多郡  
内田 満子さん

### 大変だったけど楽しかった

私が生協に加入したのは、配送エリアが仁多郡まで拡大した1988年です。その頃は勤めに出ていたのですが、別の職場の方から「生協ってというのがあってね、安心して食べられる食品を職場に届けてくれるから、とっても便利よ」とすすめがあって、職場の仲間7人でスタートしました。

当時はカタログが班に1セットしかなく回覧していました。1週間で7人がカタログを見なければいけないので、休憩時間に見たり、回ってきた日の夜に見て翌朝次の方に回したり、なんとか間に合わせるのに必死でした。現金による集金も自分たちで行っていました。順番に集計係を務め、それぞれが注文した商品の代金を集めて配送担当者に渡すのですが、いくら数えても10円や20円が合わないことはしょっちゅうでした。商品も班全員の商品が一カ所に置かれているので、仕事終わりにみんなで仕分けを行いました。一人が仕分け表を見て商品名を読み上げ、誰がはやく見つけるか、かるた取りのように競っていました。今考えると大変なことが多かったのですが、当時はそれがとても楽しかったです。みんなでわいわい仕分けをしたり、その場で「これおいしいよ」「こんな食べ方があるよ」と交流する時間が楽しみでした。

間違えて卵を大箱で注文してしまったこともあり。大箱ですから、卵が80個くらい入っていて、1家族ではとても消費をしきれません。そんなときは「私はこれだけ持って帰るよ」「近所の方に配るよ」と言って、班のみんなが協力して分け合い、ホッと一息ついたこともあり。また。

### 暮らしに欠かせない存在

カタログが1人1セット、商品が個別に分けられて届くようになったときには感動しましたが、同時にあの頃の賑やかさを懐かしく思いました。夜遅くに仕事から帰るとお店はどこも開いていない時代、冷蔵庫に生協商品があることは、安心にもつながっていました。昔も今も、生協はわたしの暮らしに欠かせない存在です。

## 生協しまねビジョン



### はじめに

私たちは、生協しまね2000年ビジョン「想いをかたちに～共に創る豊かな暮らし」を掲げ、「一人ひとりが自分らしく生きる」ということを活動の指針とし、「暮らし発」の事業や組合員活動に取り組んできました。

そして、ビジョンのもとでの活動は、「人と人との関わりがより豊かになればなるほど、新たな活力、元気が生まれ、豊かな暮らしづくりへとつながっていく」ことを導き出しました。現に、班をはじめ生協の集まりの場では、お互いに自分の想いを発信しながらも、その場をより良いものにするためのはたらきかけが生まれています。それは、お互いを「思いやる心」の循環を生み出して「共に生き、共に創る」共存の居場所づくりにつながっています。

一方で、急速な少子高齢化・人口減少、コミュニティの衰退、暮らしや「食」の市場化等が人々の孤立を招き、私たちを取り巻く社会は見通しの立てづらい不安に満ちた状態です。とりわけ、暮らしの根本である日常的な「食」が、ないがしろにされるような傾向は事態の深刻さを端的に示しています。

私たちは、このような中であって組合員・生産者・職員と共に、日々の暮らしづくりの土台である「食」と「食文化」をより豊かにしていく取り組みを強めていきます。

そして、つながりを通じてお互いの存在と暮らしを認め合い、尊重し合える関係の中で「一人ひとりの自分らしい暮らしづくり」に軸足を置き、「私たちの未来は、今の暮らし振りから生み出される」ことを自覚しつつ進みます。

さらに、さまざまな「場」においては、お互いの当事者感覚を大切にしながら「共に生き、共に創る」組織として連携と協力を広げ、誰もが暮らしやすい社会を創り出していきます。

## ビジョンを実現するうえで大切にしたいこと

1. 私たちは、一人ひとりが「自分らしく生きる」と、人との関わりをより豊かにすることを大切にしていきます。
2. 私たちは、おしゃべりから生まれる知恵や元気、安心感、共感を大切に、新しい暮らしづくりにつなげていきます。
3. 私たちは、安全安心な「食」を基本にして、一人ひとりの「暮らし発」の想いや工夫を交流し、つなぎ、より豊かな「食文化」を創っていきます。
4. 私たちは、安心して住み続けられる地域をめざし、他団体や行政などと連携・協同して、新たな生協の役割を創っていきます。
5. 職員は、組合員から得た暮らしの知恵や工夫をつなぎ、循環させて、組合員のよりよい暮らしづくりに役割を発揮します。

2002年 第18回通常総代会にて、ビジョン「想いをかたちに～共に創る豊かな暮らし～」議決

2017年 第33回通常総代会にて、新ビジョン「共に生き 共に創る豊かな暮らし」議決



## 誰もが安心して住み続けられる地域づくり

人と人との関係性が希薄化する中、生協しまねでは、人との関わりが暮らしを豊かにするという理念のもと、組合員や地域住民がつながりあう機会を創り出しています。

### 新しい組合員活動のカタチ

2020年、新型コロナウイルスの感染が拡大し、組合員どうし顔を合わせて交流することがまもなくなくなりました。そんな中でも、組合員のみなさんとつながりや組合員どうしの情報交換を大切にしていきたいと、「集まらなくてもつながれる」組合員活動のかたちを模索しました。

#### ■自宅で行う組合員活動『おうちDE試食』

2020年、コロナ禍で活動休止となった「地域ネット」「子育てくらぶ」のメンバーの希望者に試食品をお届けし、感想やアレンジレシピ、知恵や工夫などをアンケートでお聞きしました。いただいたアンケートを元にニュースを作成し、参加者へお返しすることで、組合員どうしの交流を図りました。



#### ■ZOOMさば缶おしゃべり会

2021年2月、ZOOMおしゃべり会を開催しました。組合員がそれぞれの自宅からZOOMをつないで、オンライン上で「さば缶」についての使い方やレシピ、家族の反応などを交流しました。



#### ■“おしゃべりくらぶ・子育てくらぶ”スタート

2021年、身近な人どうしが集まって、自宅でもできる新しい組合員活動、『おしゃべりくらぶ』『子育てくらぶ』がスタートしました。これまでは小学校単位で作る『地域ネット』、支所単位で作る『子育てくらぶ』でしたが、小さい単位の集まりの場が、県下にたくさん広がるよう、「組合員が3名以上集まる」ことで結成できるようになりました。



### はじめて箱スタート

2019年、山陰放送が主催する「はじめて箱」の取り組みに賛同し、生協商品の提供と「はじめて箱」のお届けをスタートしました。お子さんを迎えたご家族へ祝福の気持ちを込めてお届けしています。



### 隠岐の島への配達開始

「隠岐の島でも生協商品を利用したい」という声に応え、2014年9月、組合員136名でステーションの利用形態でスタートしました。当初拠点は隠岐の島町岬ステーションのみでしたが、2015年には五箇ステーションが開設されました。現在は818名の組合員が利用しています(2024年3月末)。

#### ■隠岐の島組合員懇談会

2015年3月、生協についてより知っていただくと同時に、隠岐の島町の組合員の想いを聞かせていただく機会として懇談会を開催しました。現在のステーション方式での不便さやご自宅への配送を希望される意見も出されました。



#### ■隠岐の島出張所稼働・班配送スタート

2018年より試験的に行っていた班配送ですが、2022年10月に隠岐の島出張所稼働に伴って、本格的にスタートしました。現在は41カ所の班に配送しています。班の結成条件は組合員5名以上となっています(2024年3月末)。



#### ■隠岐の島での組合員活動の広がり

2021年には隠岐の島で初めておしゃべりくらぶの結成がありました。2023年には支所エリア委員会が組織され、初めて隠岐の島の組合員を対象に工場見学が企画されました。隠岐の島でも徐々に組合員活動の広がりを見せています。



「隠岐漁師のあらめ」でお馴染みの隠岐の島づくり(株)での見学の様子



## 諸団体・地域と連携して地域課題に挑む

少子高齢化・人口減少、地域コミュニティの衰退などがもたらす地域課題に対して、自治体や生協しまねだけで解決を図るのは困難です。地域の課題について諸団体や地域・自治体と連携することで、誰もが安心して住み続けられる地域を創り出していきます。

### 地域つながりセンター設立

2011年から6団体(JA島根中央会、JAくにびき、松江市社協、松江市地区社協会長会、松江保健生協、生協しまね)による「地域ケア連携推進フォーラム」を定期的に開催し、「誰もが安心して暮らせる地域づくり」を目指して交流を重ねました。そして、その取り組みも生かしながら、島根の地域づくりと県民の「安心の暮らしづくり」を支えるために、2014年『地域つながりセンター』を諸団体と共に設立しました。2023年3月末現在、地域つながりセンターは11団体\*で構成されています。おたがいさまの支援やなないろ食堂、フードバンク「あったか元気便」等の運営を担っています。



\*島根県農業協同組合、松江保健生活協同組合、ひかわ医療生活協同組合、出雲医療生活協同組合、おたがいさま(まつえ・やすぎ、いすも、雲南、大田、浜田、益田)、生活協同組合しまね

### 益田市と「地域活性化包括連携協定」を締結

2024年2月21日、益田市における様々な課題を密接に連携することで解決を図るため、益田市と「地域活性化包括連携協定」を締結しました。これを契機に双方の資源を有効に活用し、災害対策、高齢者等の見守り、子育て支援、その他地域社会の活性と住民サービス向上等に貢献していきます。



### 匹見町匹見下地区での取り組み

「住民の暮らしを便利にしたい」という、益田市の匹見下いのりづくり協議会からの協力要請に応え、2024年5月、協同による買い物支援をスタートしました。生協しまねが匹見下公民館まで商品をお届けし、公民館で世帯別に商品を仕分けた後、協議会の住民ボランティアが各ご家庭へお届けする形です。住民ボランティアは、商品のお届けと同時に住民への声かけも行い、見守り活動としての役割も担っています。



### 津和野町と「高齢者の見守り連携協定」を締結

2024年8月9日(金)、津和野町と「高齢者の見守り連携協定」を締結しました。津和野町と生協しまねが相互に連携し、高齢者の要介護者の早期把握、必要な支援が行えるように協力していきます。



### フードバンクしまね『あったか元気便』スタート

2017年から地域の諸団体による、子どもを抱える生活困窮世帯を対象としたフードバンクの取り組みを試験的にスタートしました。そして、2年間の準備期間を経て、2019年に任意団体として活動をスタート。2022年には利用者からも地域からもより信頼される組織として、さらに広がりをつくるためにNPO法人として活動しています。

2024年3月末現在は、松江市の就学援助世帯の子どもたちに給食のない長期休校期間の年4回を基本に、個人・団体・企業、そして生協しまねの組合員・職員から寄付いただいた食品をお届けしています。利用世帯は松江市内の小・中学校20校を対象にのべ2,075世帯。食品総量32トンをお届けしました(2024年3月末)。



### 『なないろ食堂』スタート

『なないろ食堂』は、子どもたちへの食事の提供、学習の場の提供、学習支援や世代間交流の活動を行う場として、2016年にスタートしました。地域のみなさんの協力もあり、餅つきやじゃがいもの種植えなど、様々な体験も行っています。生協しまねの取引先からも商品の提供をいただいています。





## 安心・安全な食を届ける

“安心・安全”は誰かが与えてくれるものではなく、組合員・メーカー・生産者と一緒になって創り上げていくものという考えのもと、お互いが理解し合う取り組みを行っています。

### 産直の取り組み

生協の産直は、生産者と組合員のおたがいの顔が見える『産地直結』の活動です。組合員が生産者の顔を知るだけにとどまらず、生産者と組合員、生協が心のふれあいを通しておたがいを理解していくことを大切にしています。特に、交流会や学習会を通して双方の想い・願いなどを本音で出し合い、“共に創る”関係を築いていくことを目指しています。



(有)リサールベルデ  
産直泥付き白ネギ収穫体験交流会



マルイ食品㈱オンライン学習会

### ■葉とらずりんご「葉っぴー」の取り組みスタート

産直提携先である津軽産直組合の生産者の「外見より味に重点をおいた、よりおいしいりんごを組合員に届けたい」という想いから、2015年に『葉とらずりんご』の取り組みをスタートしました。毎年職員が生産者の園地を訪れ、りんごづくりのご苦労を体験したり、生産者に島根にお越しいただき、組合員と交流する機会を設けることで、組合員の名付けた「葉っぴー」の名前とともに、徐々にお互いの理解が深まってきました。



### ■エシカル消費の取り組み

日々のくらしのなかに「エシカル消費」の意識が広がるよう、2020年より『エシカルチャレンジ』を実施しています。

環境や社会に配慮した商品に付いているエシカルマークを集めることで、「こんなにもたくさんの商品についているなんて知らなかった」「これからマークを意識して買い物します」との意識の変化も見受けられました。



### ■フードロスの取り組み

2023年8月、浜田支所・益田支所のエリア委員会と西部担当の組合員理事が、しまね環境アドバイザーの上湯口さんをお招きして、環境に配慮した献立作り、買い物、調理、食事、片付けを行う『エコクッキング』に挑戦しました。



## 折り鶴昇華再生活動

2016年より世界中から広島市の平和記念公園に届けられる折り鶴を再生原料になるように分別し、ノートやカレンダーなどの商品化に役立てる『折り鶴昇華再生活動』をスタートしました。折り鶴についていた平和のメッセージを読み、平和へ想いを馳せたり、平和について考えるきっかけになっています。



## ㈱まい・しまね流通ラボ設立

県内の農業支援と農産物の普及を目的に2020年8月に「㈱まい・しまね流通ラボ」を設立しました。「美味しまね認証」を受けている農家の支援を積極的に行い、現在21社の生産者に協力をいただきながら、関西方面の大手スーパーへの出荷、生協しまねのカタログ「だいすき」での企画を行っています。事業の拡大を行いながら、障がい者雇用も目指していきます。



### 産地を支える取り組み(支援募金)

安心・安全な食を持続可能なものにするためには、産地と組合員がおたがいに支え合うことが必要です。これまで何度か災害に見舞われ、農作物被害が発生しましたが、その度に助け合ってきました。

#### ●天草ジュシー出荷組合(天草晩柑)

2016年1月、西日本を襲った大寒波によって全ての園地が被害を受けました。

【組合員からの支援募金】769,666円

#### ●㈱折笠農場(玉ねぎ・じゃがいも・人参)

2016年8月～9月、北海道、東北地域を襲った台風の影響により、収穫前の農産物に甚大な被害がもたらされました。

【組合員からの支援募金】1,234,704円

#### ●サン・くらふとの会(りんご)

2019年10月に発生した台風19号の影響で千曲川の堤防が決壊し、合計耕作面積約11haの内6haの畑が水没被害を受けました。生協しまねの職員5名が園地の復旧作業の応援にあたりました。

【組合員からの支援募金】2,088,595円



## 未来を創る

2015年、国連で2030年までに今生きている人々だけでなく、何世代も先の人々が、この地球で人間らしく暮らし続けるための目標であるSDGsが定められました。生協の果たす役割に大きな期待が寄せられています。これはビジョン「共に生き 共に創る豊かなくらし」にも合致します。持続可能なくらしに向け、取り組みを一層充実していきます。

### SDGsの取り組み

ビジョン「共に生き 共に創る豊かなくらし」実現は、SDGsが目指す世界と重ね合わせることができます。誰もが安心して住み続けられる地域を創り出していくため、生協しまねもSDGsの取り組みを進めました。

### ■SDGs勉強会

2022年、「持続可能なしまねのくらしの実現を目指して」をテーマに、全3回で学習会を行いました。学習と体験を通し、普段のくらしの中でできることをみんなで一緒に考える機会になりました。



## 復興支援

この10年を振り返るだけでも、全国各地でたくさんの自然災害が発生し、甚大な被害を受けました。生協しまねでは、組合員のみなさんへ支援募金への協力の呼び掛けをはじめ、復興支援のボランティアに参加し、1日も早い復興・復旧を願いました。

### 職員がボランティアに参加



2014年8月 広島市豪雨災害支援



2018年4月 島根県西部地震



2018年7月 平成30年7月豪雨災害(江津市)



2024年1月 能登半島地震

### これまでの「復興支援基金」報告

下記の災害について、組合員のみなさんに支援基金のご協力をお願いしました。

- 2014.8 広島市豪雨土砂災害
- 2015.9 関東・東北豪雨災害
- 2016.4 平成28年熊本地震
- 2017.7 九州北部豪雨災害
- 2018.4 島根県西部地震災害
- 2018.7 平成30年7月豪雨災害
- 2020.7 令和2年7月豪雨災害
- 2024.1 能登半島地震



●数字でみる生協しまね

- 年間供給高(売上高): 93億255万円
- 組合員数: 72,201人
- 加入率: 24%
- 出資金: 30億6,591万円
- 支所数: 7支所 + 本部、商品センター、隠岐の島出張所
- 地域ステーション(大型): 29
- PB商品: 7
  - ・産直こめたまご(JAしまね出雲地区本部)
  - ・まい!しまねの牛乳(島根中酪株式会社)
  - ・まい!しまねの1.0低脂肪牛乳(島根中酪株式会社)
  - ・ヨーグルトプレーン(島根中酪株式会社)
  - ・県内産大豆100%もめんとうふ(石見食品株式会社)
  - ・まい!とうふじゅうてんくん(石見食品株式会社)
  - ・産地指定米きぬむすめ(JAしまね石見銀山)

- 組合員活動:
  - おしゃべりくらぶ: 191くらぶ 716名
  - 子育てくらぶ: 7くらぶ 22名
  - サークル: 43サークル 199名
  - 夕食宅配数: 1日あたり約1,600食



「地域と共にあゆみ続ける生協をめざして」

お客様で生協しまねは昭和、平成、そして令和の三つの時代潮流から節目となる創立40周年を迎えることができました。また、今期は隠岐の島町へ事業エリアを拡大して丸10年を迎え二重の喜びを感じています。こうして事業活動の取り組みができるのも、ひとえに歴代の礎に託された役職員と理事、組合員、そして関係団体の皆様方のご支援、ご協力の賜物と心より厚く感謝申し上げます。モノが不足した時代から経済は活発化し、モノが溢れる時代へと進化するなか、歴史は心の豊かさを重視し生協しまねは「共に生き 共に創る豊かな暮らし」をビジョンに掲げ、おしゃべりの中から豊かな暮らしを創造してきました。県下7万2千人の組合員と向き合う役職員、理事の皆さんがイキイキと笑顔で寄り添い、お互いにくらしを共有し合うことで共感を呼び起こしています。また、ささえあいの世界はくらしを紡ぎ、おたがいさまの活動をとおして広がっていることも実感できます。学んできたしまねの歴史を踏まえ、自分らしく生きる姿の価値観を共有しながら、これからの生協しまねの未来を描いて参りたいと思います。

結びに、地域社会は超高齢化を迎え、島根県は全国よりも時代を先駆ける情勢と認識しています。人口減少による地域経済への影響は益々大きくなっています。また、世界を見渡せば国際テロリズムや大量破壊兵器の持つ挑戦から緊張が一層強まっており、対話による国際平和の実現に向けた活動を全国の生協の仲間と結束して取り組まなければなりません。先々が見通せない社会を背景に、生協しまねはこれからも地域実態に見合った「共同体」創りに覚悟を持って積み上げ、地域に暮らす人々への役立ちの実現に向け、役職員をはじめ組合員、諸団体と連携しながら豊かな地域社会に貢献できる生協創りに躍進して参ります。引き続き皆様方のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



専務理事

小林 健吾

「未来に向け、つながりづくりをより強固に」

40周年を迎える今年の11月、これまでの皆様の温かいご支援に心から感謝申し上げます。こうしてこの日を迎えることができたのは、ひとえに組合員の皆様、お取引先様、地域における活動を支えて頂いた関係先様、そして、これまで多くの喜びや苦労を共にしてきた働く仲間の方だと思っております。あらためて御礼申し上げます。

私が生協しまねに入協したのが1988年、当時は17,000名余りの組合員数で『班配送』のみの利用形態でした。それから36年経ち、今や県下で約72,000名の組合員数となりました。その間、社会情勢の変化に伴い、『地域ステーション』『個人宅配』『なかよし個配』の利用形態に加え、『夕食宅配』も含め、福祉的な要素も加味し、各種サポートサービスも行うことで多くの方にご利用頂く状況に至っています。

特にコロナ禍の2020年以降は、生協の宅配事業への期待から『個人宅配』が大きく伸長し、直近の5年間で約3,600名の組合員数の増加(それまでの5年間は約1,500名増加)と個配ニーズが一気に高まりました。生協を選んで頂く理由は『安全・安心』『利便性』もありますが、関係性が希薄になる世の中でも組合員活動における『組合員同士のつながり』また、事業活動における『組合員と担当職員とのつながり』に期待した声も多く寄せられています。

これからの未来に向け、こうした様々な場面での『つながりづくり』を大切にして組合員、地域に貢献することを大切に、皆様と共に歩んでまいります。今後とも変わらぬご指導ご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。



常務理事

門脇 文隆

# 事業所・理事会・監事会

INTRODUCTION

## 紹介



雲南支所



大田支所



隠岐の島出張所



松江北支所



浜田支所



益田支所



松江南支所



出雲支所



本部



2014	2013	2012	2011	2010	2009	2008	2007	2006	2005	2004	2003	2002	2001	2000	年
65,772	64,538	63,166	62,010	60,828	60,190	58,937	57,504	57,491	56,542	56,318	55,377	53,650	53,803	52,634	組合員数
79.4	77.6	77.3	78.5	78.8	79.3	80.7	81.6	83.0	80.8	81.8	84.5	84.9	90.5	94.2	供給高(億)
6月 創立30周年記念行事と講演会開催 9月 隠岐の島町への事業エリア拡大(県内全て事業エリアとなる) 9月 隠岐の島町「岬ステーション」スタート	4月 「赤ちゃんサポートクラブ」スタート 10月 「食のOH-緑タラシ」スタート 10月 コーピCSネット尾道冷凍物流スタート	4月 「赤ちゃんサポートクラブ」スタート 10月 「食のOH-緑タラシ」スタート 10月 コーピCSネット尾道冷凍物流スタート	4月 「コープの夕食宅配スタート」 9月 松江南支所 新築移転オープン 10月 組合員サービスセンターの開設	2月 「2人で利用できる」なまこ個別記スタート 4月 「もずく基金」の取り組みが中国5生協へ広がる 6月 「食の安全」安心作り出す針策定 コーピCSネット尾道ドライセッターセンタースタート 組合員数6万人達成	12月 「もずく基金」スタート 4月 「島根県産飼料米をエサに使った産直」こめたまこ供給スタート 「班別仕分け」試験導入を実施(松江南・雲南)	2月 「個別手数料」改定 6月 リーディングサービスCD化開始	7月 浜田支所新築移転オープン ファンターネットワークスタート	5月 「個人宅配」スタート 「個人宅配」スタート	9月 「くらし応援個別」(コート、障がいき)スタート 声のシエラリーディングサービススタート コープ中四国事業連合(COOPCSネット)加入 くらし応援個別に「なまこ」個別記が加わる	創立20周年記念大ハザール10000人以上が来場 20周年記念料理レシピ集「あるもれレシピ」作成 「団体が保険」取り扱いスタート 「たまご」食パンの予約登録スタート	品質管理室設置 農産品が32品目から45品目に増加	「個人宅配」スタート	生協しまねビジョン「想いをかたちに」共に創る豊かな暮らし」策定 豚肉・鶏肉加工品などの表示偽装問題発見	1人で利用できる「地域ステーション」スタート 「夜間電話注文サービス」スタート	
8月 「コトコトチャペル」展開 7月 地域つながりセンター開設 8月 有償ボランティア「おたがいさま 浜田」スタート	6月 東日本大震災復興支援活動 宮城県南三陸町ボランティア活動 8月 東部豪雨水害への支援活動	6月 東日本大震災復興支援活動 宮城県南三陸町ボランティア活動 8月 東部豪雨水害への支援活動	「食へてしゃべって 良さ発見」スタート	東日本大震災被災者支援募金を呼びかけ1,500万を被災地に届けた 「放射能汚染の影響と私たちのくらしと健康」と題し講演会を開催 10月 「冊子」二班「のある風景」に組合員のくらしとむすびつきを探る」作成	1月 津軽産直組合生産者交流会スタート 1月 冊子「高齢者組合員がより豊かに暮らすために」刊行 6月 有償ボランティア「おたがいさま 大田」スタート 6月 「飼料米」の田植え、稲刈り交流会を開催	「しまね消費者問題ネットワーク」発定 「地域づくり研究会」発定	地域でのつながりを深める「おしゃべりパーティー」スタート	有償ボランティア「おたがいさま 雲南」スタート 松江南支所「こたも」10番「トック」スタート	6月 有償ボランティア「おたがいさま 雲南」スタート	有償ボランティア「おたがいさま 雲南」スタート 松江南支所「こたも」10番「トック」スタート	「おしゃべり忘年会」開催	子育て講座と交流会の開催 ホームページの開設	有償ボランティア「おたがいさま いずも」スタート 組合員の願いや想いを自由に書く「ひびこカード」スタート	食品衛生法改正を求める署名 食生活改善を促す署名	
消費税率5.3%へ 「憲法解釈変更」による集団的自衛権の行使容認の閣議決定 広島市での豪雨土砂災害	消費税率5.3%へ 「憲法解釈変更」による集団的自衛権の行使容認の閣議決定 広島市での豪雨土砂災害	消費税率5.3%へ 「憲法解釈変更」による集団的自衛権の行使容認の閣議決定 広島市での豪雨土砂災害	消費税率5.3%へ 「憲法解釈変更」による集団的自衛権の行使容認の閣議決定 広島市での豪雨土砂災害	東日本大震災、東電福島第1原発事故 野田内閣誕生 野田首相がTPP交渉参加を表明 国際協同組合年	宮崎県で口蹄疫の被害が拡大 尖閣諸島で中国漁船が巡視船に衝突 鳩山首相退陣、菅内閣発定	中国産冷凍餃子事件 リーマンショック 北京オリンピック開催 福田首相が退陣、麻生内閣発定 衆院選で民主党圧勝。政権交代で鳩山内閣発定 新型インフルエンザが大流行 オバマ大統領就任	安倍首相が突然退陣し、福田内閣発定 郵政民営化スタート	インドネシアのスマトラ島沖でM9.0の地震が発生 津波により約29万人が死亡 山口県で日本国内で70年ぶりの鳥インフルエンザが発生 アテネオリンピック開催	JR福知山線脱線事故 死者107人、負傷者400人以上 日本人の人口、初の減少となる	雪印乳業による集団食中毒事件 シドニーオリンピック開催 森内閣発定	日本で初めて狂牛病(BSE)に感染 アメリカ同時多発テロ発生 小泉内閣発定 産地偽装、表示義務違反が多数発生 サッカーワールドカップ日本・韓国共同開催	イラク戦争勃発 日本郵政公社が営業開始	病原性大腸菌O157による食中毒が発生 米の販売自由化スタート アトランタオリンピック開催 橋本内閣発定 消費税率5%に引き上げ 神戸市須磨区連続児童殺傷事件	羽田内閣発定 製造物責任(P)法成立 被爆者援護法成立 長野県松本サリン事件発生 村山内閣発定 北海道南西沖地震発生 バブル崩壊、EU発定 細川内閣(非自民連立政権)発定	

世の中の動き



折り鶴昇華再生活動のようす



隠岐の島事業拡大



「もずく基金」スタート



「おたがいさま いずも」スタート



共済事業スタート OCR注文(個人別注文)スタート



創立総会

1999	1998	1997	1996	1995	1994	1993	1992	1991	1990	1989	1988	1987	1986	1985	1984	1983	1982	年	
50,931	49,019	46,490	43,476	41,143	38,470	37,050	33,988	29,964	25,027	21,021	17,128	12,450	7,854	4,511	2,431				組合員数
97.3	98.1	94.6	91.5	85.4	80.2	83.5	79.6	70.9	55.9	43.1	31.9	20.5	10.8	5.7	1.3				供給高(億)
11月 共同購入個人袋の回収リサイクルスタート	11月 共同購入個人袋の回収リサイクルスタート	11月 共同購入個人袋の回収リサイクルスタート	11月 共同購入個人袋の回収リサイクルスタート	11月 共同購入個人袋の回収リサイクルスタート	11月 共同購入個人袋の回収リサイクルスタート	11月 共同購入個人袋の回収リサイクルスタート	11月 共同購入個人袋の回収リサイクルスタート	11月 共同購入個人袋の回収リサイクルスタート	11月 共同購入個人袋の回収リサイクルスタート	11月 共同購入個人袋の回収リサイクルスタート	11月 共同購入個人袋の回収リサイクルスタート	11月 共同購入個人袋の回収リサイクルスタート	11月 共同購入個人袋の回収リサイクルスタート	11月 共同購入個人袋の回収リサイクルスタート	11月 共同購入個人袋の回収リサイクルスタート	11月 共同購入個人袋の回収リサイクルスタート	11月 共同購入個人袋の回収リサイクルスタート	11月 共同購入個人袋の回収リサイクルスタート	松江保健生協総代会「購買事業部」を設置 組合員62名、10班で共同購入スタート
「食品の安全」の学習会開催 保障&見直し講座開催	「食品の安全」の学習会開催 保障&見直し講座開催	「食品の安全」の学習会開催 保障&見直し講座開催	「食品の安全」の学習会開催 保障&見直し講座開催	「食品の安全」の学習会開催 保障&見直し講座開催	「食品の安全」の学習会開催 保障&見直し講座開催	「食品の安全」の学習会開催 保障&見直し講座開催	「食品の安全」の学習会開催 保障&見直し講座開催	「食品の安全」の学習会開催 保障&見直し講座開催	「食品の安全」の学習会開催 保障&見直し講座開催	「食品の安全」の学習会開催 保障&見直し講座開催	「食品の安全」の学習会開催 保障&見直し講座開催	「食品の安全」の学習会開催 保障&見直し講座開催	「食品の安全」の学習会開催 保障&見直し講座開催	「食品の安全」の学習会開催 保障&見直し講座開催	「食品の安全」の学習会開催 保障&見直し講座開催	「食品の安全」の学習会開催 保障&見直し講座開催	「食品の安全」の学習会開催 保障&見直し講座開催	「食品の安全」の学習会開催 保障&見直し講座開催	組合員活動
「食生活改善を促す」署名 食生活改善を促す署名	「食生活改善を促す」署名 食生活改善を促す署名	「食生活改善を促す」署名 食生活改善を促す署名	「食生活改善を促す」署名 食生活改善を促す署名	「食生活改善を促す」署名 食生活改善を促す署名	「食生活改善を促す」署名 食生活改善を促す署名	「食生活改善を促す」署名 食生活改善を促す署名	「食生活改善を促す」署名 食生活改善を促す署名	「食生活改善を促す」署名 食生活改善を促す署名	「食生活改善を促す」署名 食生活改善を促す署名	「食生活改善を促す」署名 食生活改善を促す署名	「食生活改善を促す」署名 食生活改善を促す署名	「食生活改善を促す」署名 食生活改善を促す署名	「食生活改善を促す」署名 食生活改善を促す署名	「食生活改善を促す」署名 食生活改善を促す署名	「食生活改善を促す」署名 食生活改善を促す署名	「食生活改善を促す」署名 食生活改善を促す署名	「食生活改善を促す」署名 食生活改善を促す署名	「食生活改善を促す」署名 食生活改善を促す署名	組合員活動
羽田内閣発定 被爆者援護法成立 村山内閣発定	羽田内閣発定 被爆者援護法成立 村山内閣発定	羽田内閣発定 被爆者援護法成立 村山内閣発定	羽田内閣発定 被爆者援護法成立 村山内閣発定	羽田内閣発定 被爆者援護法成立 村山内閣発定	羽田内閣発定 被爆者援護法成立 村山内閣発定	羽田内閣発定 被爆者援護法成立 村山内閣発定	羽田内閣発定 被爆者援護法成立 村山内閣発定	羽田内閣発定 被爆者援護法成立 村山内閣発定	羽田内閣発定 被爆者援護法成立 村山内閣発定	羽田内閣発定 被爆者援護法成立 村山内閣発定	羽田内閣発定 被爆者援護法成立 村山内閣発定	羽田内閣発定 被爆者援護法成立 村山内閣発定	羽田内閣発定 被爆者援護法成立 村山内閣発定	羽田内閣発定 被爆者援護法成立 村山内閣発定	羽田内閣発定 被爆者援護法成立 村山内閣発定	羽田内閣発定 被爆者援護法成立 村山内閣発定	羽田内閣発定 被爆者援護法成立 村山内閣発定	羽田内閣発定 被爆者援護法成立 村山内閣発定	世の中の動き

世の中の動き